

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：82702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00951

研究課題名（和文）幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究

研究課題名（英文）A Basic Study of Diaries of Service in Edo by Local feudal retainer in the Late Edo Period

研究代表者

根本 佐智子（Nemoto, sachiko）

神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸員

研究者番号：40817607

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、庄内藩の上級武士松平造酒助久茂による『松平造酒助江戸在勤日記』を全文翻刻し、その研究を行った。松平造酒助は元治元年（1864）8月より13か月間、江戸市中取締の主導する組頭として江戸に在勤するが、その間50冊もの挿絵入りの日記を記し、国元の家族へと送っていた。造酒助は日記と同時期に100通を超える書簡も記しており、この書簡と日記は相互補完関係にあり、この双方を解釈、研究することにより多くのことが判明した。これら研究成果は研究成果報告書にまとめPDFを広く公開し、2023年2月に神奈川県立歴史博物館において特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記 - 武士の絵日記 -」を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年江戸勤番武士の日記が注目されているが、上級武士による日記、しかも自筆挿絵入りのものはかつてなく、類を見ない資料といえる。内容も職務日誌ではなく、造酒助の一日の生活を詳細に記したもので、上級武士の在勤生活を具体的にみることができる。また、庄内藩が担った江戸市中取締についての実態を示す貴重な資料でもある。これら松平造酒助による日記・書簡を全文翻刻し、PDFで公開したことで、庄内藩史研究や江戸在勤武士研究だけでなく、幕末江戸の生活や風俗等、様々な角度からの利用が見込まれる。また、展覧会やYouTube動画等で紹介し、研究者から一般の方々まで広く認知され、楽しんでいただくことができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, I deciphered the entire text of the "The Diary of Matsudaira Mikinosuke During in Edo" written by a senior samurai of the Shonai domain, Matsudaira Mikinosuke Hisashige. Matsudaira Mikinosuke served in Edo for 13 months from August of the first year of the Genji Era (1864) as a captain in charge of Edo city control. He wrote a total of 50 illustrated diaries and sent them to his family in Tsuruoka. Mikinosuke also wrote over 100 letters to his family at the same time as his diary. This letter and the diary are complementary. Deciphering and studying both has revealed much. The research results were compiled into a research report and made widely available in PDF format. In February 2023, I organized a special exhibition, "The Diary of Matsudaira Mikinosuke During in Edo - Pictorial Diary of a Samurai -" at the Kanagawa Prefectural Museum of History.

研究分野：日本近世史

キーワード：松平造酒助 庄内藩 江戸市中取締 江戸在勤日記 元治元年～慶応元年

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』は、庄内藩の家禄 1400 石を数える上級武士、松平造酒助久茂が江戸市中取締りを主導する組頭として江戸へ登り、その在勤中に自らの生活を詳細に記し、国元の家族へ送った日記である。上級武士の在勤生活を具体的に見ることができ、当時の庄内藩江戸藩邸の動きや、庄内藩による江戸市中取締りの状況なども記される大変資料性の高い日記である。さらに、自筆による彩色を施したかわいらしい挿絵も多数あり、造酒助のその時々的心情が自画像に表れている。特に造酒助が江戸市中見廻りをしている際の絵や新徴組の稽古の様子を描いた絵などは、貴重な絵画資料として、写真パネルが展覧会へ出品されることもあった。

しかし、日記本文部分は日記自体が 50 冊という大部となっている上、造酒助も父に悪筆乱文を詫びている程の悪筆であることから、研究に活用されることはなく、詳細な内容も不明であった。研究代表者および研究協力者は、この日記をより多くの研究者の利用に供したいと考え、平成 26 年より『神奈川県立歴史博物館研究報告(人文科学)』において翻刻を発表していた。日記資料であり、国元の家族へ宛てた書簡のような性質を持つ資料であるため、その資料特性上、双方の存知の事柄を省略するなど、文字をそのまま読むだけでは内容の理解が難しく、日記をより深く理解するには、庄内藩の国元である鶴岡市に残る資料など、より広い視野を持って調査を行う必要性を感じた。鶴岡市には同時期に造酒助が国元の両親へ宛てた書簡等の資料が存在し、日記と関連資料を比較検討することで、より深く日記を理解することができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』(全五十冊)(以下『日記』と略す)を翻刻し、日記の内容を解明・整理するとともに、作者である庄内藩士松平造酒助久茂の国元である山形県鶴岡市に残された関連資料、鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書 造酒助書簡」(以下「造酒助書簡」と略す)とを比較検討し、幕末期(元治元年～慶応元年)の庄内藩江戸在勤上級藩士の実態、および文久三年(一八六三)四月に庄内藩酒井家が命じられた江戸市中取締りと、それを主導した組頭の任務等、日記に記された内容を解明し、幕末期地方上級藩士における江戸在勤中の諸相に対する理解を深めることを目的とした。

3. 研究の方法

まず、基礎作業として資料の全貌を把握することとし、『日記』の全文翻刻作業 鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」の調査 関連資料・文献の調査等を行った。

『日記』の全文翻刻を一端終了し、同時に鶴岡市郷土資料館へ調査に赴き、松平武右衛門文書の内「造酒助書簡」としてまとめられていた約二〇〇件の撮影を行った。撮影した「造酒助書簡」は年代順にならべ、研究協力者と共に翻刻作業にも着手した。は鶴岡市郷土資料館より多くの情報を提供していただき、造酒助の墓所の調査、造酒助江戸在勤当時の分限帳類の調査も行った。分限帳類により、日記に登場する人物の関係性を明らかにすることができた。

次に、撮影した「造酒助書簡」の翻刻と分析を進めた。

「造酒助書簡」を翻刻の上内容分析を行うと、「造酒助書簡」は 安政二年～同三年、品川台場御用にて江戸にある父武右衛門宛、 元治元年～慶応元年、造酒助江戸在勤中国元の両親宛、 慶応元年～慶応二年、江戸在勤中の弟弓矢多宛、 それ以外に大別できることが判明した。

特に を発給日順に並べることで『日記』との対応も可能になった。『日記』と「造酒助書簡」は同時期に作成されているため相互補充関係にあり、両者を比較検討することにより、『日記』をより深く理解できるようになった。不明であった記述や表現等の理解が進み、既に解読済みであった『日記』の大幅な改訂を行うことができた。の中には造酒助が滞在了した柳原屋敷の図や長屋の間取図等もあり、『日記』の挿絵で描かれている部屋や構図を立体的に理解することができるようになった。

最後に、『日記』と「造酒助書簡」の全文翻刻をデータ化したことにより、データ抽出が可能となった。抽出データを活用し、松平造酒助の江戸在勤の分析を行い、研究成果報告書にまとめた。

4. 研究成果

(1) 『松平造酒助江戸在勤日記』について

『日記』は神奈川県立歴史博物館が平成元年(一九八九)に古書店より購入した資料で、それ以前の伝来は不明である。紙綴りで仮綴じされた状態で全五十冊あり、形態は、第四冊～第九冊は横半帳で概ね縦 125 mm×横 174 mm、その他は縦帳で縦 240～270 mm×横 167～177 mm、丁数は 2 丁～20 丁と区々である。

作者である松平造酒助久茂は、庄内藩において代々重職を勤める松平武右衛門家七代であり、家禄一四〇〇石の上級武士である。文久三年に隠居した父の跡目を相続し、当時の役職は組頭で、元治元年(一八六五)八月より江戸市中取締りの任に当たるため、組の者と共に閏月を含む十三ヶ月間江戸に在勤した。この時数えて三十三歳である。この在勤は、一般的な領主の参勤交代に

伴う勤番ではなく、いわば有事の際の出陣にも近いものであった。実際に、造酒助が江戸へ到着した当日に長州征伐将軍親征の先鋒の幕命が庄内藩に下るが、造酒助は中老より庄内藩の一ノ手を命じられ、息つく間もなくその準備に奔走している。

『日記』は、造酒助の江戸での日々の出来事を記し、国元の両親・家族へ宛てたものである。『日記』の執筆目的は江戸での生活・経験を国元の家族へ伝えるということもあるが、造酒助にとっては江戸生活で自らの行いを律する目的もあったようで、江戸へ上ったばかりの弟弓矢多が深川仮宅見物へ行ったことを聞くと、日記を付け送るようにと申しつけている。日記を記し送ることは国元への報告に加え、江戸での生活の乱れを律する意味もあったと考えられる。

『日記』の内容はとても詳細で、朝起きた時から寝るまでの一日の様子を逐一書き記している。出府した庄内藩士の長屋での生活に関する情報や、江戸市中で見聞きした事象、江戸市中取締に関する事件や、出勤した火事のことなどにも言及している。さらには、庄内藩の長州征伐将軍親征の先鋒の幕命に対する準備、長州征伐御免への流れなど、当時幕府より命じられた任務に関する庄内藩江戸藩邸の反応などもうかがい知ることができる。特に、造酒助が江戸で「大ハマリ」した西洋式銃砲については、出入り鉄砲鍛冶や横浜から手に入れ、自ら日々射撃訓練をするだけでなく、藩へ西洋砲銃の重要性を説き、実際に訓練を主導し開始している様子が詳細に記され、庄内藩軍備の西洋化を積極的に推進している姿を見ることができる。この姿から、造酒助は庄内藩軍備の西洋化の礎を築いた人物であることが明らかである。

さらに『日記』の大きな特徴として、造酒助は絵に長け、多くの可愛らしい挿絵が描かれていることが挙げられる。造酒助は大変子煩悩で、この挿絵は国元の子供たちを楽しませるために描いたものであるが、挿絵からは、造酒助が見た大都市江戸、行った観光地の様子、触れた江戸の文化だけでなく、その時々々の造酒助や同僚である庄内藩重臣たちの心情等を見て取ることができる。また、正月に絵の具を手に入れると、挿絵に彩色を施すようになり、下書きの上、丁寧に描かれている箇所もある。特に造酒助が江戸市中取締の任務で市中見廻りを行っている様子や、庄内藩召し抱えとなった新徴組を描いた挿絵は、大変珍しい絵画資料として評価されている。造酒助は在勤中に「北斎漫画」を手に入れ構図の勉強をしており、中には「北斎漫画」の構図を利用して描いている挿絵もある。

現在『日記』の各冊最初には朱字で「一-二」から「五十終」までの番号が振ってあり、残念ながら初冊は欠失している。そのため、初冊に付された原題は不明であるが、表紙のある冊の題名は「日記」や「日々控」であり、『松平造酒助江戸在勤日記』は収蔵時に付された資料名である。各冊の表紙には、冊数の番号とともに、飛脚や庄内へ下る藩士等の日記を運んだ人物の名と、江戸発の日付、庄内着の日付、手元に達した日付も朱字（墨書も有）で記されている。これらを記したのは造酒助父武右衛門久徴と考えられるが、手元に達した順に番号を振ったのか、『日記』の番号は時系列でなく、錯簡が起っている。旅程や街道の状況により武右衛門へ達した日が前後したためであろう。また、「四十一」には本来「四十三」となるはずであった冊が番号を振られずに合本されている。

現在での最初の冊に当たる「一-二」の記述は造酒助が江戸への旅中、元治元年八月十三日朝に始まるが、「造酒助書簡」には庄内出立日は八月四日とあり、失われた初冊は八月四日から八月十二日までの記述であったことが推測できる。また、「五十終」では八月十一日の記述で終わるが、「造酒助書簡」により八月二十七日に無事庄内へ帰着したことが判明した。

(2)「造酒助書簡」について

鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」は、鶴岡市が古書店より購入した資料群で、受け入れ以前の伝来は不明である。鶴岡市郷土資料館の受け入れの段階で資料群は大まかに分類されていたそうで、造酒助による書簡と思われるものが一箱にまとめられ、別箱には造酒助母書簡（父安政二年～三年台場警備時のもの）や明治期の文書等も存在する。

本研究では「松平武右衛門文書」のうち、一箱目の造酒助に直接関わるとと思われる資料群の全点の翻刻を行った。これら文書は江戸在勤中の「国元の両親へ宛てた約 200 通の書状」とされてきたが、記述内容を検討すると、以下の通りに分類することができた

造酒助書簡（安政二～三年 江戸在勤中の父宛）	55 件
造酒助書簡（元治元年～慶応元年 造酒助江戸在勤中）	102 件
造酒助書簡（慶応元年～慶応二年 江戸在勤中の弓矢多宛）	11 件
造酒助書簡（年不詳）	6 件
造酒助宛書簡	6 件
その他書簡（武右衛門宛ほか）	38 件

このうち報告書には造酒助の書簡である ~ を掲載し、年不詳のうち五件は掲載を略した。

~ の中で作成時期や記述内容が関連するものは【参考】として該当箇所へ配置した。その全貌は鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書 造酒助書簡」松平造酒助江戸在勤日記対応年代順リストの通りである。「造酒助書簡」の形態は大半が状であるが、稀に折紙のもの、竖帳のものがある。各書簡の寸法・形態（状以外のもの）も同リストに記した。

は品川台場御用による父武右衛門久徴の江戸在勤期間、庄内の造酒助より江戸芝の台場付御陣屋にある武右衛門に宛てた書簡である。武右衛門は安政二年七月八日に庄内を発し、七月二十一日に江戸に到着した。在勤中十月二日には安政大地震に見舞われるが怪我もなく、翌安政三年五月に庄内へ戻る。地震の一報を受けた武右衛門家が混乱する様子や、留守を預かる嫡子の立

場で、同居の叔父に支えられながら様々な問題と接する造酒助の姿を見ることが出来る。造酒助の筆まめは父譲りであったようで、父からの書簡が数日毎に届いていることが読み取れ、造酒助はその「御答」という形で返信している。この時造酒助は数えで二十四歳である。

は造酒助が江戸在勤中に庄内にある父武右衛門および母籠・家族へ宛てた書簡である。書簡は造酒助江戸在勤 380 日間に 102 通作成され、単純計算で約 3.7 日に一通の割合である。書簡を書く機会は日記を送る際と同様、庄内への便に合わせるため日記の冊末尾と書簡作成日が同日となっているものが多い。一日の行動を記す『日記』に対して、書簡ではその行動や職務がより詳しく記され、それらに対する造酒助の心情が吐露されている。特筆すべきは、弟弓矢多の出府が決まると、家族の関心から江戸で必要になる衣服や装備、江戸で就く職務（江戸市中取締の旗本寄合組）の詳細などが記されるようになり、現在に江戸市中取締の実態を知らせている。

は造酒助庄内帰着後、江戸在勤中の弟弓矢多へ宛てた書簡である。慶応元年五月二十九日大御前様（先々代藩主酒井忠発婦人）の御供で出府した弓矢多は、旗本寄合組の一員として江戸市中取締に従事し、慶応二年三月中の交代で庄内へ戻ったと考えられる。弓矢多が造酒助のように頻りに国元の家族と書簡のやり取りをしていたかは弓矢多の書簡が現存しないため不明であるが、弓矢多と造酒助との書簡のやり取りは一月に一、二通程度であり、や程頻繁ではない。非常に筆まめな父と生真面目な造酒助との関係性から、これほど頻繁な書簡のやり取りが行われたのだろう。

（3）研究成果報告書

研究成果報告書『2018年～2022年度 科学研究費助成事業 基盤(C)研究成果報告書 幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究』を刊行した。（全 284 ページ）
報告書の構成は、以下のとおりである。

1. 凡例
2. 研究の概要
3. 資料翻刻 松平造酒助江戸在勤日記
4. 資料翻刻 松平武右衛門文書 造酒助書簡 ・ 造酒助書簡 ・ 造酒助書簡
5. 鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書 造酒助書簡」松平造酒助江戸在勤日記対応年代順リスト
6. 補注
7. 主な人名解説
8. 論考 根本佐智子「松平造酒助江戸在勤」
古宮雅明「松平造酒助の在勤中の食生活覚書き」
寺西明子「江戸藩邸と国元をつなく 造酒助の利用した輸送手段」
9. カラー図版

3.の資料翻刻の部分には、『日記』全冊の全文を掲載した。挿絵はできるだけ元の位置になるように収めた。彩色された挿絵はカラー図版で別掲し、該当箇所（図○入）と示した。4.の資料翻刻には、「造酒助書簡」を 造酒助書簡（安政二～三年江戸在勤中の父宛）55件、造酒助書簡（元治元年～慶応元年造酒助江戸在勤中）102件、造酒助書簡（慶応元年～慶応二年江戸在勤中の弓矢多宛）11件、造酒助書簡（年不詳）6件、造酒助宛書簡6件 その他書簡（武右衛門宛ほか）38件に分類し、造酒助の書簡である ～ に ～ の関連文書を【参考】として含め、全文翻刻を時系列に並べ掲載した。

さらに8.では、日記・書簡を研究した論考：根本佐智子（研究代表者）「松平造酒助の江戸在勤」、古宮雅明（研究協力者）「松平造酒助の在勤中の食生活覚書き」、寺西明子（研究協力者）「江戸藩邸と国元をつなく 造酒助の利用した輸送手段」を掲載した。特に、「松平造酒助の江戸在勤」では、造酒助の人物像、長屋での生活、江戸での勤務と他行、西洋銃砲の導入などを取上げて解説した。

この研究成果報告書は神奈川県立歴史博物館 HP において全文を PDF 公開した。『日記』に関しては神奈川県立歴史博物館 HP のデジタルアーカイブにおいて全丁の画像が公開されている。

（4）展覧会

研究成果の公開として、令和 5 年 2 月 18 日より 4 月 9 日まで神奈川県立歴史博物館において、特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記 武士の絵日記」展を開催した。展覧会の展示構成と概要は以下の通りである。

プロローグ 幕末の庄内藩：庄内藩の紹介と幕末に庄内藩が命じられた任務について紹介

- 1 章 松平造酒助：父武右衛門の業績、父の江戸在勤と相続前の造酒助の様子と家督相続
- 2 章 造酒助の江戸在勤生活：庄内藩江戸屋敷 住んだ長屋の様子・生活 神田橋への通勤
- 3 章 造酒助の職務：長州征伐 御免 軍取調掛 江戸市中取締 庄内藩へ西洋銃砲導入
- 4 章 造酒助の見た江戸：江戸の食物、神田祭、花見、江戸の思い出、北斎漫画に学ぶ
- 5 章 その後の造酒助：帰国 慶応 3 年死去 薩摩屋敷襲撃から戊辰戦争勃発

エピローグ 武士の絵日記と江戸勤番武士の日記：石城日記、酒井伴四郎日記、東役飛翰などの紹介

『日記』50 冊全冊を展示し、同じ冊に複数所収される挿絵など、展示不可能な箇所は写真パネルで展示を行った。鶴岡市郷土資料館より「造酒助書簡」のほか、柳原屋敷図など関連資料を、

日野市よりミニエー銃など銃器類をお借りして展示した。借用資料により、平面的になりがちな文書の展示を、お客様の頭の中で立体的に組み立てることができるようになったと感じた。

また、江戸時代の武士の絵日記の例として、石城日記（慶應義塾大学文学部古文書室所蔵）、江戸在勤武士の日記の例として酒井伴四郎日記（江戸東京博物館所蔵）、東役飛翰（立正大学図書館古文書資料室所蔵）の写真をお借りし、パネルで紹介した。出品資料は以下の通りである。

関連事業として、以下の事業を行った。

- ・ [関連展示] 常設展示トピック展 造酒助とかながわ 部下久蔵の江ノ島日帰り旅
- ・ [展示解説] 学芸員による展示解説 4回
- ・ [記念講演会] 「松平造酒助江戸在勤日記の魅力」講師：古宮雅明氏（研究協力者）
- ・ [連続古文書講座] 「松平造酒助江戸在勤日記を読む」（全3回）講師：寺西明子（研究協力者）・根本佐智子（研究代表者）

会期前から会期中にかけて8本の展示紹介動画をYouTubeにUPし、広報に努めた。展覧会場近くにもモニターを置き、動画を楽しめるようにした。Twitter等SNSでの広報も行ったが、借用資料所蔵機関のご許可をいただき、展示室でも資料写真撮影を可としたため、来館者が展示室で撮影した写真がSNSで紹介され、コロナ禍にも関わらず、大変多くのお客様にご来館いただいた。

松平造酒助江戸在勤日記—武士の絵日記—

松平造酒助江戸在勤日記は日記と略し、写真パネルはパと略しています。期間中に場面替えを行います 前期 2月18日(土)～3月12日(日) 後期 3月15日(水)～4月9日(日)

出品目録

NO.	資料名称	年代	所蔵	資料点数		NO.	資料名称	年代	所蔵	資料点数	
				前	後					前	後
1	日記第14冊ほか	元治元年(1864)11月1日	神奈川県立歴史博物館	8	8	51	日記第35冊	慶応元年(1865)4月晦日	神奈川県立歴史博物館	1	1
2	日記第39冊	慶応元年(1865)閏5月7日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	52	日記第44冊	慶応元年(1865)6月21日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
3	丙申堂薬門			パ	パ	53	日記第45冊	慶応元年(1865)7月3日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
4	編年私記 五	嘉永2年(1849)8月25日	鶴岡市郷土資料館	1	1	54	グベール銃		日野市	1	1
5	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 70	(安政2年(1855))8月9日	鶴岡市郷土資料館	1	1	55	グベール銃 銃弾		日野市	6	6
6	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 88	(安政2年(1855))10月10日	鶴岡市郷土資料館	1	1	56	ミニエー銃		日野市	1	1
7	松平三郎兵衛書簡 松平武右衛門文書 10	(安政2年(1855))9月13日	鶴岡市郷土資料館	1	1	57	ミニエー銃 銃弾		日野市	1	1
8	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 108	(安政3年(1856))4月2日	鶴岡市郷土資料館	1	1	58	洋式銃弾		神奈川県立歴史博物館	1	1
9	編年私記 六	文久3年(1863)12月25日 -文久4年正月22日	鶴岡市郷土資料館	1	1	59	日記第13冊	元治元年(1864)11月9日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
10	日記第1冊	元治元年(1864)8月14日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	60	日記第21冊	元治2年(1865)正月6日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
11	日記第1冊	元治元年(1864)8月17日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	61	編年私記 六	慶応元年(1865)閏5月13日	鶴岡市郷土資料館	パ	パ
12	日記第1冊	元治元年(1864)8月19日	神奈川県立歴史博物館	1	1	62	日記第2冊	元治元年(1864)8月晦日	神奈川県立歴史博物館	1	1
13	日記第6冊	元治元年(1864)9月晦日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	63	日記第3冊	元治元年(1864)9月6日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
14	日記第4冊	元治元年(1864)9月14日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	64	日記第31冊	慶応元年(1865)4月8日	神奈川県立歴史博物館	1	1
15	日記第5冊	元治元年(1864)9月21日	神奈川県立歴史博物館	1	1	65	日記第33冊	慶応元年(1865)4月15日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
16	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 202	(元治元年(1864))11月15日	鶴岡市郷土資料館	1	1	66	日記第43冊	慶応元年(1865)6月8日	神奈川県立歴史博物館	1	1
17	浅草向柳原屋敷絵図	嘉永2年(1849)4月吉日	鶴岡市郷土資料館	1	1	67	日記第47冊	慶応元年(1865)7月16日	神奈川県立歴史博物館	1	1
18	日記第43冊	慶応元年(1865)6月8日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	68	日記第21冊	元治2年(1865)正月	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
19	日記第26冊	元治2年(1865)2月23日	神奈川県立歴史博物館	1	1	69	日記第44冊	慶応元年(1865)6月19日	神奈川県立歴史博物館	1	パ
20	日記第41冊	慶応元年(1865)6月5日	神奈川県立歴史博物館	1	1	70	日記第44冊	慶応元年(1865)6月19日	神奈川県立歴史博物館	パ	1
21	日記第4冊	元治元年(1864)9月14日	神奈川県立歴史博物館	1	1	71	日記第27冊	元治2年(1865)3月2日	神奈川県立歴史博物館	1	パ
22	日記第17冊	元治元年(1864)12月8日	神奈川県立歴史博物館	1	1	72	日記第27冊	元治2年(1865)3月2日	神奈川県立歴史博物館	パ	1
23	日記第3冊	元治元年(1864)9月5日	神奈川県立歴史博物館	1	1	73	日記第27冊	元治2年(1865)3月2日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
24	日記第16冊	元治元年(1864)11月19日	神奈川県立歴史博物館	1	1	74	日記第28冊	元治2年(1865)3月14日	神奈川県立歴史博物館	1	パ
25	日記第23冊	元治2年(1865)正月19日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	75	日記第28冊	元治2年(1865)3月14日	神奈川県立歴史博物館	パ	1
26	日記第44冊	慶応元年(1865)6月16日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	76	日記第28冊	元治2年(1865)3月14日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
27	日記第13冊	元治元年(1864)11月7日	神奈川県立歴史博物館	1	1	77	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 206	(元治2年(1865))3月12日	鶴岡市郷土資料館	1	1
28	日記第33冊	慶応元年(1865)4月17日	神奈川県立歴史博物館	1	1	78	日記第8冊	元治元年(1864)10月5日	神奈川県立歴史博物館	1	1
29	酒井兵部丞書 松平武右衛門文書 209	(元治元年(1864))9月2日	鶴岡市郷土資料館	1	1	79	日記第23冊	元治2年(1865)正月23日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
30	日記第6冊	元治元年(1864)9月24日	神奈川県立歴史博物館	1	1	80	日記第37冊	慶応元年(1865)5月16日	神奈川県立歴史博物館	1	1
31	日記第9冊	元治元年(1864)10月9日	神奈川県立歴史博物館	1	1	81	日記第12冊	元治元年(1864)10月27日	神奈川県立歴史博物館	1	1
32	日記第19冊	元治元年(1864)11月27日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	82	日記第19冊	元治元年(1864)12月3日	神奈川県立歴史博物館	1	1
33	日記第19冊	元治元年(1864)11月27日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	83	日記第48冊	慶応元年(1865)7月26日	神奈川県立歴史博物館	1	1
34	日記第22冊	元治2年(1865)正月11日	神奈川県立歴史博物館	1	1	84	日記第27冊	元治2年(1865)3月6日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
35	日記第23冊	元治2年(1865)正月24日	神奈川県立歴史博物館	1	1	85	日記第21冊	元治元年(1864)12月29日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
36	日記第39冊	慶応元年(1865)閏5月5日	神奈川県立歴史博物館	1	1	86	日記第21冊	元治2年(1865)正月1日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
37	日記第42冊	慶応元年(1865)閏5月25日	神奈川県立歴史博物館	1	1	87	日記第10冊	元治元年(1864)10月15日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
38	日記第21冊	元治2年(1865)正月1日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	88	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 103	(慶応元年(1865))閏5月19日	鶴岡市郷土資料館	1	1
39	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 213	(元治2年(1865))3月9日	鶴岡市郷土資料館	1	1	89	日記第30冊	慶応元年(1865)4月25日	神奈川県立歴史博物館	1	1
40	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 195	(元治2年(1865))4月6日	鶴岡市郷土資料館	1	1	90	日記第45冊	慶応元年(1865)7月7日	神奈川県立歴史博物館	1	1
41	日記第21冊	元治2年(1865)正月	神奈川県立歴史博物館	1	パ	91	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 19	(慶応元年(1865))9月7日	鶴岡市郷土資料館	1	1
42	日記第21冊	元治2年(1865)正月	神奈川県立歴史博物館	パ	1	92	編年私記 六	慶応元年(1865)11月19日	鶴岡市郷土資料館	パ	パ
43	日記第10冊	元治元年(1864)10月17日	神奈川県立歴史博物館	1	1	93	閑書雑書	慶応3年(1867)9月18日	鶴岡市郷土資料館	1	1
44	日記第13冊	元治元年(1864)11月8日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	94	近世史略 薩州屋敷松之図 豊洲国陣圖	明治24年(1891)	神奈川県立歴史博物館	パ	パ
45	日記第24冊	元治2年(1865)正月29日	神奈川県立歴史博物館	1	1	95	松平造酒助墓		神奈川県立歴史博物館	パ	パ
46	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 173	(元治元年(1864))12月4日	鶴岡市郷土資料館	1	1	96	石城日記	文久元年(1861)6月15日～2年4月29日	慶應義塾大学文学部古文書室	パ	パ
47	日記第18冊	元治元年(1864)12月12日	神奈川県立歴史博物館	1	1	97	酒井伴四郎日記	万延元年(1860)5月11日～11月30日	江戸東京博物館	パ	パ
48	日記第21冊	元治元年(1864)12月23日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	98	東役飛翰	元治元年(1864)正月1日～4月27日	立正大学図書館古文書資料館	パ	パ
49	松平造酒助書簡 松平武右衛門文書 37	(元治元年(1864))12月29日	鶴岡市郷土資料館	1	1	99	日記第38冊	慶応元年(1865)閏5月1日	神奈川県立歴史博物館	1	1
50	日記第16冊	元治元年(1864)11月21日	神奈川県立歴史博物館	パ	パ	100	日記第49冊	慶応元年(1865)7月29日	神奈川県立歴史博物館	1	1
						101	日記第11冊	元治元年(1864)10月21日	神奈川県立歴史博物館	1	1
						102	日記第16冊	元治元年(1864)11月18日	神奈川県立歴史博物館	1	1
						103	日記第50冊	慶応元年(1865)8月5日	神奈川県立歴史博物館	1	1
						104	日記第34冊	慶応元年(1865)4月25日	神奈川県立歴史博物館	1	1

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 根本佐智子 古宮雅明	4. 巻 47
2. 論文標題 松平造酒助江戸在勤日記 慶応元年閏五月九日より同八月十一日ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 77-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 根本佐智子・古宮雅明	4. 巻 46
2. 論文標題 松平造酒助江戸在勤日記 - 元治二年正月十一日より慶応元年閏五月九日ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 79-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 根本佐智子・古宮雅明	4. 巻 45
2. 論文標題 松平造酒助江戸在勤日記 - 元治元年十一月朔日より元治二年正月十一日ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神奈川県立博物館研究報告（人文科学）	6. 最初と最後の頁 61～88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 根本佐智子
2. 発表標題 松平造酒助江戸在勤日記について
3. 学会等名 幕末維新史研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 根本佐智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 根本佐智子	5. 総ページ数 284
3. 書名 2018年度～2022年度 科学研究費助成事業 基盤（C）研究成果報告書 JSPS科研費JP18K00951 幕末期 地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>〔武士の絵日記〕 県立歴史博物館のキュレーターが挑む「松平造酒助江戸在勤日記」 https://www.youtube.com/watch?v=KCS0CB0vI_8 おうちでかながわけんぱく おうちでみきのすけ https://ch.kanagawa-museum.jp/ouchi/mikinosuke 特別陳列 松平造酒助江戸在勤日記 武士の絵日記 https://ch.kanagawa-museum.jp/exhibition/8351 特別陳列 松平造酒助江戸在勤日記 武士の絵日記 紹介動画 https://www.youtube.com/watch?v=qFn010bDKd4 特別陳列関連動画第二弾 「みきのすけ西瓜を割る」 https://www.youtube.com/watch?v=ZXUHN5ONxGg 特別陳列関連動画第三弾 「みきのすけの通勤経路を見る」 https://www.youtube.com/watch?v=U0bkhSfKmdU 特別陳列関連動画第四弾 「みきのすけと西洋銃」 https://www.youtube.com/watch?v=f2WolmxYPG30 特別陳列関連動画第五弾 「みきのすけと輸送経路」 https://www.youtube.com/watch?v=qCYNhraoHK8 特別陳列関連動画第六弾 学芸員による展示解説 https://www.youtube.com/watch?v=QE5FL9SxGCY 特別陳列関連動画第七弾 「みきのすけのお宅拝見」 https://www.youtube.com/watch?v=nznrjwi4oCA 特別陳列関連動画第八弾 「みきのすけという男」 https://www.youtube.com/watch?v=IJfxeqRE228</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	古宮 雅明 (komiya masaaki)		
研究協力者	寺西 明子 (teranisi akiko) (20882301)	神奈川県立歴史博物館・学芸部・学芸員 (82702)	
研究協力者	神谷 由香 (kamiya yuka)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------